

秘書学会報

昭和61年 2月14日発行

No.4

日本秘書学会編集委員会

東京都世田谷区等々力6-39-15 ㊤158
産業能率短期大学内
☎(03)704-4011

《特集》ブロック研究会活動報告

活発な研究活動がスタート

ブロック研究会が本学会の新しい研究活動の場として、昨年6月の第4回総会で誕生・発足してから半年余が経過した。ブロック研究会は、秘書研究活動をより一層推進するため、全国を6ブロック(北海道)・(関東・東北)・(中部)・

(近畿)・(中国・四国)・(九州・沖縄)に区分し、各ブロックで適宜研究会などを開き、小グループ研究や個人研究の成果を発表し、相互研鑽をはかることを目的としている。また、各ブロックから推奨された研究報告は、研究推進委員会を経て、研究大会で発表することができる。会員は各自の所属機関の所在地により、各ブロックに参加するので、研究会合への参加が地理的に容易になる。これにより研究会合の頻度が高まり、また、秘書

研究者のすそ野拡大も期待される。そこで本号では、各ブロックからこの半年間の研究活動の報告をいただき、その特集を組むことにした。それぞれ特色ある研究活動がスタートしている。最後に、ブロック研究会のありある発展を期待し、また、お忙しい中を、企画・運営にご尽力いただいている各ブロックのリーダー、サブリーダー及び運営委員の諸先生方に深く感謝申し上げる所である。

北海道ブロック

- リーダー / 浅川修二 北海道武蔵女子短期大学
- サブリーダー / 白川智洋 静修短期大学
- 運営委員 / 大賀 淳 北海道武蔵女子短期大学
丹治和典 静修短期大学
能登洋子 札幌大学女子短期大学部
和野内崇弘 静修短期大学

日本秘書学会・京都大会(60年6月)における総会決定に従って北海道ブロック研究会では次のような活動を行ってきた。

1. 第1回運営委員会
日時/8月26日 午後2時~4時30分
場所/北海道武蔵女子短期大学
内容/「北海道ブロック研究会」の運営方法について協議した結果、本年度は総会決定に則って準備態勢を整えることを主な目標とし、第1回研究会を11月30日に開くこととした。

2. 第2回運営委員会
日時/11月30日午前11時~午後12時50分
場所/北海道武蔵女子短期大学
内容/研究会の運営方法を協議し、基本的な考え方を第1回研究会に提案し、会員の意見を聞くこととした。

出席者/リーダー、サブリーダー、運営委員

3. 第1回北海道ブロック研究会
日時/11月30日 午後1時~5時
場所/北海道武蔵女子短期大学
出席者18名
[プログラム]
12:30~13:00 受付
13:20~13:40 開会挨拶 浅川 修二
(秘書教育研究の流れとブロック研究会設立の主旨について)
13:40~14:10 自己紹介
14:10~15:10 研究報告
「秘書学研究の経緯と方向」 静修短期大学 和野内崇弘
「秘書史研究の経過と課題」 静修短期大学 阿久津昭夫
15:10~16:00 質疑応答・ディスカッション
16:00~16:30 座談会「北海道ブロック研究会のあり方」
了承事項
●構成メンバー：学会会員以外のメンバー

(特に、実務界)の参加を積極的に求める。
●開催回数：年2~3回程度
●会費：2,000円(年会費)
●その他：
研究方向及び研究会運営における独自性(1)秘書に関する研究を「実践の科学」として位置づけ、教育方法論の検討を不可欠のものとする。
(2)北海道内で秘書職についている方々のヨコの連携をとれる場を提供するとともに、実務界との交流を積極的に行う機会を設ける。
16:30~17:30 VTR視聴 秘書教育シリーズ「セクレタリー・ストーリー」
(浅川修二 記)

関東・東北ブロック

- リーダー / 高月東一 東京工芸大学女子短期大学部
- サブリーダー / 森脇道子 産業能率短期大学



日本秘書学会第1回関東・東北ブロック研究会は、さる10月26日(日)に産業能率短期大学を会場にして開かれました。出席会員は第1回としては予想を上回る75名を数え、全体会に続いて行われたグループに分かれての討議も大変熱を帯びて研究会に対する期待の大きさが感じ

られました。「もうすこし討議の時間が欲しい」との声は、そのまま懇親会へと引き継がれ、会場のあちこちで見られた会員相互の意見交換風景は次回以降の本会の一層の発展を約束させるものでした。当日の日程はプログラムの通りですが、第1回のため中心議題には「ブロック研究会の運営方法」がおかれましては、はじめに、ブロックリーダーの高月東一先生より本会設立の経過と運営についての詳しい説明があり、続くグループ討議の中で運営委員会原案に基づき具体的な運営方法などについて意見交換が行われました。この結果、
i) 本ブロック研究会は軌道に乗るまでの間、毎年1回、10月の土曜日(午後1時~5時)東京都内で開催する。但し、本年度は3月29日(日)「効果的な秘書教育方法を目指して」をテーマに第2回研究会を開催する。
ii) 各グループごとに今後の研究の進め方と統一テーマについて次回に方向づけをする。

が確認されました。なお、当日は暫定的なものとして関心領域別に次の5グループが編成されました。
①秘書理論 I
②秘書理論 II
③秘書実務 接遇 マナー
④秘書実務 OA
⑤秘書実務 文書管理
しかし、これらのグループ領域区分ならびにメンバーについても、今後、更に再編成を行いながら研究会を軌道に乗せていくことも了解されました。運営委員/天野恒男(産能短期大学)、大宮 登(山形女子短期大学)、木下雪江(共栄学園短期大学)、佐藤啓子(常磐学園短期大学)、白井 勇(専門学校中野スクール・オブ・ビジネス)、高井由喜雄(学校法人川口学園)、中佐古 勇(東京家政学院短期大学)、西谷正弘(専門学校東京スクール・オブ・ビジネス)、藤田利久(福島女子短期大学)、堀江 光(城西大学女子短期大学部)、瀧口知子(東京工芸大学女子短期大学部)
(藤田利久 記)

時間	内容	出席者
12:30~13:00	受付	3名(男性)
13:00~13:10	開会の挨拶	高月 東一
13:10~13:40	メック・ブール挨拶	高月 東一
13:40~14:10	ブロック設立経緯・運営についての説明	高月 東一
14:10~15:10	講演 「秘書と長年やうい安全の確保方法」 産能短期大学教授 文書博士 安本 真典	3名(2男1女)
15:10~16:00	質疑	3名(2男1女)
16:00~16:30	座談会	1名(女性)

中部ブロック

- リーダー / 横山静祺 市朝学園短期大学
- サブリーダー / 吉田寛治 金沢女子短期大学



中部ブロック研究会発足及びその後の経過についての報告は次のとおりである。
1. 設立準備会
名古屋市愛知会館にて9月7日午後2時より行う。当日の出席者17名。会の運営、研究内容、役員選出等につき話し合った。その要旨は下記のとおりであった。
(イ) 次期会合の場所は東邦学園短期大学とする。日時は12月20日以降とする。会場については持ち回りを考える。
(ロ) 報告は「秘書学と秘書教育」について、横山が記号論の立場からと、日本私立短期大学協会の調査結果について話し合う、の二つを決定。
(ハ) 運営委員の選出はリーダーに一任する。
(ニ) その他秘書教育用教材の必要性などについて話し合いがもたれた。

2. 第1回運営委員会
運営委員の選出はリーダーに任せられたので、サブリーダーと相談の結果、次の諸先生方をお願いすることにした。伊藤和生(市朝学園短期大学)、岡野細枝(富山経済専門学校)、奥喜久男(東邦学園短期大学)、奥村真澄(仁愛女子短期大学)、河村真澄(名古屋短期大学)、北湯克輔(金城短期大学)、島本みどり(東邦学園短期大学)、鈴木忍(富山女子短期大学)、水野清子(中部産業近代化研究所)、水谷内徹也(星稜女子短期大学)。
なお、第1回委員会は北陸地区は11月9日金沢兼六荘にて行われた。議事は各自の授業の事例研究、企業の責任者を呼び懇談会の実施、会員の増加法などについて話し合われ、研究会は61年2月8日石川黒婦人会館で行うことを決定した。

東海地区委員会は12月14日東邦学園短期大学で行われ、一般的な話し合いが行われ、準備会の確認と年3回程度研究会前に委員会をもつなどが話し合われた。
3. 第1回中部ブロック研究会
(イ) 12月23日午後2時より東邦学園短期大学においてブロック研究会を行った。報告は横山が「秘書学と秘書教育」と題して秘書学の秘書概念と秘書教育の秘書の人間像との差異について記号論の立場から区別し、その論理的背景を解明するのではないかと私の私案が認められ、その後日本私立短期大学協会の調査について島本氏より説明があり、これを中心に話し合いがもたれた。
(ロ) 北陸地区研究会は2月8日より東海と同様な研究会をもつ予定である。
(横山静祺 記)



近畿ブロック

- リーダー / 田中篤子 梅花短期大学
- サブリーダー / 福永弘之 兵庫県立姫路短期大学

3日文化の日、4日振替休日を控え、日本シリーズ第6戦で阪神日本一なるかどうかにうしろ髪をひかれながら参集した近畿ブロック研究会は、11月2日午後1時から、大阪ガーデンパレスで催された。出席者30名。

総会司会は地元の大原一郎先生(大阪成蹊女子短期大学)におながいし、はじめに田中篤子ブロックリーダー(梅花短期大学)のあいさつ、次いで福永弘之のブロックサブリーダー(県立姫路短期大学)の経過報告があった。

この中で運営委員は、日本秘書学会京都大会の運営委員が横すべりすることが提案され、前木淳己先生(京都短期大学)、宇都宮垂徳先生(園田学園女子短期大学)、緒方真澄先生(平安女学院短期大学)、田中篤子先生(梅花短期大学)、藤原一郎先生(大阪成蹊女子短期大学)、福永弘之(県立姫路短期大学)、矢野智恵子先生(京都経営経理専門学校)があたる事が認められた。

ついで、テーマ研究「秘書実務教育充実のために」にうつり、前木淳己先生の司会の下に、梅花短期大学の服部美樹子

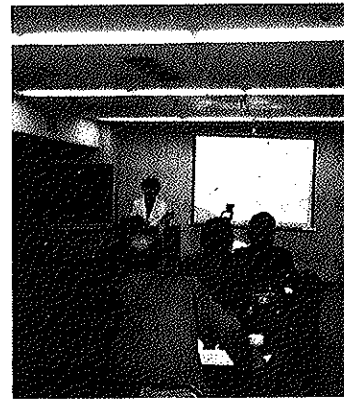
先生によって梅花短期大学における秘書実務教育の年間スケジュール、教材の一端、インバスケットの様子などが、OHPを使って詳細に報告された。嵯峨野書院刊「秘書実務」でいくらか事前知識があったものの、小クラス編成のキメのこまかい授業に感心させられた。

二番手として、大阪医療技術学園の武田寿子先生による医療秘書科の病院実習のオリエンテーションプログラムの発表があった。医療秘書科のくわしい実態報告ははじめてであったので、一同高い関心をもって聞き、質問が相次いだ。休憩の後、3時から個人研究にうつり、堺女子短期大学の前木美行先生による、「古代の皇太子の秘書的機関について—奉宮坊の成立を中心に—」の発表があった。

幅広く集めた資料による精緻な研究であり、秘書史研究の空白部分に一石を投ずるものと思われる。三番手として、京都文化短期大学の西澤真紀子先生が「秘書部門の職能と執務体制」と題して、サントリー株式会社秘書部門の職能と執務体制の推移を、実証的資料を使ってOHPにより、くわしく報告された。出席者一

同深い関心をもって視聴した。最後に、矢野智恵子先生の閉会あいさつがあり、来年以降も継続していくことで幕を閉じた。第1回にしては、中味のある会合で、今後の発展が期待される。来年も同時期ごろ開催したい。

(福永弘之 記)



中国・四国ブロック

- リーダー / 清水慶秀 広島女学院大学
- サブリーダー / 森貞俊二 松山東雲短期大学

◇第1回研究会
「中国・四国ブロック研究会」の発会式をかねた第1回の研究会を昭和60年7月26日(金)、広島女学院大学で開催した。夏期休業中という日程の都合上、14名の参加にすぎなかったが、出席会員の自己紹介と研究の動向報告など、有意義な会であった事を感謝している。当日は個人発表は行わず、今後の会の運営の方法、研究会のもち方などについて意見交換をし、つぎの2点を決定して解散した。

(1)運営委員の選出
運営委員は、岡山県1人、広島・山口県2人、徳島県1人、香川県1人、愛媛県1人の計6名で構成することとし、それぞれの県からつぎの6氏が選出された。
岡山県: 岡田 稔(川崎医療短期大学)
広島・山口県: 胡 義博(鈴峯女子短期大学)
清水慶秀(広島女学院大学)
徳島県: 佐藤正則(徳島文理大学)

香川県: 三宅耕三(上戸学園女子短期大学)
愛媛県: 森貞俊二(松山東雲短期大学)
(2)第2回研究会の件
昭和60年11月下旬から12月上旬にかけて広島で開催、研究発表の申込み等については後程要領を決定案内、会場は広島女学院大学を予定。

昭和60年8月28日、以上の2点を中心に会員各位に第1回研究会の報告を文書で行い、第2回研究会への多数の参加をお願いした。

◇第2回研究会
昭和60年11月30日(日)、広島女学院大学において第2回研究会が開催され、25名の参加による5件の研究発表が行われた。研究発表者とその発表題目はつぎの通りである。
(1)社会科学としての秘書学
——科学としての秘書学確立のための一試論——

- 柴山 正(広島女子商業高等学校)
 - (2)革命期に生きた秘書達
藤田雅子(岡山女子短期大学)
 - (3)秘書課程卒業後の動向
中瀬佐智子(順正短期大学)
◎富山由紀子(")
 - (4)人事院総裁秘書官の業務について
林 雄太郎(広島女学院大学短期大学部)
 - (5)秘書教育に関する企業実態調査
——松山市を中心とした女子労働の現状——
森 貞俊二(松山東雲短期大学)
◎桐木陽子(")
佐伯三麻子(")
渡辺和枝(")
青野篤子(")
藤原基代美(")
- 昭和61年度の第3回研究会は、愛媛の松山東雲短期大学を会場校にして開催の予定である。
(清水慶秀 記)

九州・沖縄ブロック

- リーダー / 井下謙次郎 鹿児島女子短期大学
- サブリーダー / 内藤郁世 佐藤ビジネス専門学校

九州・沖縄ブロック研究会は7月27日、鹿児島市のホテル・ニューカゴシマで第1回会合を開いた。参加者は約30名、女子短期大学、専修学校を初め、実業界、女子大生等、多彩な顔ぶれであった。まず九州大学名誉教授、日本秘書学会顧問の林慎二郎先生が「秘書教育と私」と題して講演、「技術教育偏重の状況の中の全人教育の必要性、とくに秘書教育においては、人づくりを基本におくことの重要性」を強調され、参加者に深い感銘を与えた。

ついで、懇談会に移り、ユーモア溢れる自己紹介の後「ブロック研究会に何を期待するか」をテーマに話し合い、1、勉強会とともに、親睦の場とする。
1、柔軟性および弾力性ある研究会とする。
(短大、専修学校等だけでなく、企業人、

一般社会人、学生等のオブザーバーの参加も歓迎する)
1、研究発表、報告等は自由とする。
1、地域社会への奉仕を考える。
等の今後の運営方針を決めた。その後パーティに移り、お互いの親睦を深める一夕を過ぎた。
第2回研究会は、10月26日、福岡市の佐藤ビジネス専門学校で開かれた。参加者は約25名。前回同様、女子短期大学、専修学校の秘書教育担当者を初め企業人も参加、これまでの経過、ならびに各ブロックの活動状況報告のち、
1、「秘書教育における行動学習に基づく人間関係学展開の試み」鹿児島女子短期大学教授、集団力学研究所副所長 高 積助氏
1、「OAと秘書教育」福岡女子短期大学

講師 田村幸子氏
の2件の研究発表が行われた。
高氏は企業での豊富な経験を交えて、ユニークな秘書教育における人間関係論を展開、また田村氏は、OA教育は単にOA機器の操作や応用を教えるだけではなく、広く人間学や女性学等の幅広い教養が伴うべきであるとの点を強調、いずれも関心の深い問題だけに、活発な質疑が交された。
同研究会も2回を重ね、ようやく軌道に乗ったように、参加者一同からできるだけ多く開催するよう要望があった。
(井下謙次郎 記)



第5回大会のご案内
日本秘書学会第5回総会並びに研究大会の会場及び概略日程が右記のとおり決定しました。
現在本大会での研究発表を募集中です。秘書学及び秘書教育に関するものでテーマは自由です。応募の締切りは昭和61年3月14日(金)です。応募要領の詳細案内は、会員にはすでに送付済みです。お問合せは学会事務局まで。
なお、詳細な「大会プログラム」及び「参加要領」は、5月上旬までに大会委員会(委員長:産業能率短期大学教授 森脇道子、事務局:産業能率短期大学)からご案内いたします。

【第5回大会 概略日程】
●大会期日 / 昭和61年6月19日(木)・20日(金)の2日間
●会 場 / 私学会館 東京都千代田区九段北4-2-25
Tel 03-261-9921
●概略日程 / 6月19日(木)
10:00~17:00 総会、講演、研究発表
17:00~19:00 懇親会
6月20日(金)
9:30~12:30 テーマ別研究会